

平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果  
国立大学法人福島大学

1 全体評価

福島大学は、創立以来、福島の地において、教育、産業、行政等広く各界へ専門的人材を輩出しており、地域に存在感と信頼感のある高等教育機関として果たしてきた使命を踏まえて、平成23年3月の東日本大震災と原発事故以来、被災者・被災地域の支援と復興に関わり、ここからの学びを活かせる唯一の総合大学として、また、新たな地域社会の創造に貢献できる人材育成大学として発展を目指している。第3期中期目標期間においては、①被災地復興への貢献を活かし地域課題に創造的に取り組む人材育成、②地域イノベーションと環境放射能動態に関する国際的研究の拠点、③復興支援の継続と新たな地域社会の創造への貢献を基本的な目標に掲げている。

この目標達成に向け、学長のリーダーシップの下、ビジョンの策定を通じた高等教育機関の連携強化や自治体と連携した除染作業の実施に取り組むなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成28年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 東日本大震災と原発事故により甚大な被害を受けた福島県浜通り地域の再生を目指す「福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想」の実現を支援するため、「中井プラン2021」で示した『21世紀的課題』が加速された福島での課題の解決に結びつく研究を、重点研究分野として指定する「foRプロジェクト」について、新たに公募を実施し、「地域交通」、「ロボット」、「環境放射能」の3分野のプロジェクトを指定している。（ユニット「イノベーション・コースト構想への参画」に関する取組）
- 農学系教育研究組織設置準備室を設置し、室長を含めた専任教員、兼務教員を配置しているほか、学外アドバイザー等を配置し、カリキュラム及び教員組織等を含めた組織全体の検討を開始している。また、農学系人材養成機能の在り方に関する協議会及び検討会の合同会議を開催し、地方自治体や関連団体の意見も踏まえ、最終報告書を取りまとめている。（ユニット「農学系人材養成組織の設置」に関する取組）

## 2 項目別評価

## &lt;評価結果の概況&gt;

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

## I. 業務運営・財務内容等の状況

## (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

## 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成27年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されているほか、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

## ○ ビジョンの策定を通じた高等教育機関の連携強化

代表校を務める、福島県内全ての高等教育機関19機関等によって構成される「アカデミア・コンソーシアムふくしま」において、5年後の平成33年までを見据えて、東日本大震災から5年が経過した状況において、復旧・復興と並行して、その先に福島県があるべき姿を実現するために、県内の高等教育機関がどうあるべきかを定めた「第3期中期ビジョン」を策定している。当該ビジョンの策定を通じて、福島県の発展に向けた更なる貢献のために、高等教育機関の連携の強化に取り組んでいる。

**(2) 財務内容の改善に関する目標**

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

**(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標**

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

**(4) その他業務運営に関する重要目標**

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

**○ 自治体と連携した除染作業の実施**

福島市と連携し、「福島市ふるさと除染実施計画」に沿って、金谷川キャンパス構内生活圏森林部分（建物や駐車場から5m程度）の除染工事を実施している。その結果、金谷川キャンパス構内生活圏の放射線量は環境基準（0.23 $\mu$ Sv/h）以下となるなど、除染の成果があげられている。

平成28年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

**○ 情報セキュリティマネジメント上の課題**

情報セキュリティを脅かす確率が高い事例が発生し、また、必要な情報セキュリティ対策が講じられているとは言えないことから、再発防止に向けた組織的な取組を更に実施することが望まれる。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

### ○ 学生団体による活発なボランティア活動

学生団体「福島大学災害ボランティアセンター」において、顧問教員による指導の下で、学生が企画立案した「いるだけ支援」（学生による仮設住宅拠点化生活支援）活動を実施している。学生が2名ずつ4か月交代で1年間仮設住宅に住み込み、居住者と日常生活の声掛け、近所付き合い、簡易な生活支援、自治会行事の手伝い等を行うなど、学生による自主的なボランティア活動が実施されており、マスメディアにも取り上げられている。

### ○ 地元企業の若手社員による学生の就職支援

企業から推薦された若手社員を、相談役である「キャリアサポーター」に任命し、学生の就職活動の支援を行っている。キャリアサポーターは、学生に福島で働くことよさを伝えるため、学生との個人面談、少人数型座談会、大人数の交流会、企業説明会等において相談役を担っており、114社から140名のキャリアサポーターが推薦されている。

### ○ 高校訪問による積極的な情報発信

震災による福島県の風評払拭、大学の教育・研究・震災復興の取組等の紹介のため、副学長自ら東北・新潟・北関東地域の高校訪問を実施している。平成28年度から、入学選抜に係る調査研究等、優秀な学生を確保するための活動を担うアドミッションオフィサーが高校訪問に参画しており、福島県内39校、県外54校の高校を訪問し、積極的な情報発信を実施している。